利根中央病院だより

第81号
2026
秋

きらめき

kirameki

発行責任者　利根中央病院　病院長
編集責任者　利根中央病院　事務長
〒378-0012　群馬県沼田市沼須町910-1
TEL:0278-22-4321（代表）　FAX:0278-22-4393
URL:https://www.tonehoken.or.jp/

北毛地域総合救急センター（北毛ER）のご紹介

このたび当院では、「北毛地域総合救急センター（北毛ER）」を設置しました。人口減少・高齢化、医師不足などを背景に県北部の救急医療体制が脆弱化する中、利根沼田地域の救急医療を将来にわたり維持するとともに、吾妻・渋川北部を含む広域の救急患者を安定して受け入れる体制を構築することが設置の目的です。さらに、今後想定される二次医療圏の再編にも対応できるよう、現行の医療圏を越えた連携体制を先行して整備します。

北毛ERでは、病院総合医・救急医・各科専門医がそれぞれの専門性を生かして機能的に連携し、初期対応から専門治療までを円滑につなぐ体制を構築します。あわせて、診療看護師・特定行為看護師・救急救命士を含む多職種体制を強化し、地域医療機関や消防との連携を深めながら、県北部の総合救急医療を支える中核的な拠点を目指してまいります。

副院長（救急科科長・外科部長）

郡 隆之
こおり　たかゆき



北毛地域総合救急センターの医師・看護師・救急救命士

Emergency Room



看護部の紹介（看護部長交代のご挨拶）

患者さんに寄り添い、患者さんの声に耳を傾け、患者さんを支援する看護



看護部長

須田 良子（すだ　よしこ）

この度、2026年9月付けで看護部長に就任致しました。看護部長という大きな責任を担うこととなり、身の引き締まる思いでおります。

看護部は、看護師、保健師、助産師、准看護師、介護福祉士、看護補助者の総勢336名、全職員の半数以上を占める大所帯の部署になります。

当院は利根沼田地域唯一の急性期総合病院として、あらゆる疾患の患者さんが利用されます。患者さんの年齢層は新生児から超高齢と幅が広く、特に高齢の入院患者さんが常に７割ほどいらっしゃいます。疾病の背景も人それぞれ異なります。医療の高度化、患者さんの高齢化は提供する医療内容、看護内容に直結します。その為、患者さん一人ひとりが持つ問題を解決する力を持つ看護の果たす役割はとても大きいと感じます。入院生活は身体的な負担だけでなく、環境の変化や不安、心細さを感じます。患者さんの心の変化に寄り添いながら回復を支援することも看護の役割の一つです。外来は毎日700人前後と多くの患者さんが受診されます。診療をスムーズに行うこと、また安全な医療・看護の提供を心掛けています。

「患者さんに寄り添い、患者さんの声に耳を傾け、患者さんを支援する看護」この看護部理念は私たちの羅針盤です。患者さんが「地域で安心して暮らし続ける」ことを叶えるために、患者さんの持つ健康問題や困りごとを入院、外来、自宅など患者さんが居る場所で、患者さんに寄り添い、様々な医療チームと共に考えます。病院で解決できないことは訪問看護、診療所、介護施設などケアの場所を移しながら地域、社会全体で健康を支える橋渡しを行います。

そして、患者さん、ご家族に「この病院に来てよかった」と思っていただける良い医療を提供するためには、看護職員だけでなく全職員がお互いの業務を尊重し、協力し合い、チームのパフォーマンスを向上させることも重要です。私たち看護部は利根中央病院の一員として、看護部の理念を念頭にこの地域で当院が果たす役割をさらに充実させていきたいと思います。



師長による朝のベッドコントロールの様子



病院師長メンバー

医療安全管理室の紹介

医療安全管理室は副院長直轄の部署であり、関わる対象は全職員です。

医療安全管理委員会、医療安全推進委員会、医療安全カンファレンス（週に１回）を開催し、院内で起こるインシデントやアクシデント、good job報告、オカレンス報告を元に、再び同じことが起こらないように分析、改善策を考える部署です。また、年に２回、全職員対象の研修を企画し、前年度のインシデント報告から、全職種に共通して学習できるテーマを決め、職員のスキルアップを図っています。

インシデント報告は決して失敗した報告書ではありません。日常の小さな間違い・発見を集め、早期に対策を講じることで重大事故につながる可能性のある潜在的なリスクを減らせます。ハインリッヒの法則にあるように、安全に関わる出来事は、どんな小さな気づきでも誰でも気づいたら報告することで大きな事故を防ぐことになります。その報告書を元に、現場に出向き、発生時の状況や周囲の様子などを聞きとることで、その事例の背景に触れることができます。特に多職種のレポートはラウンドに行くことで初めて見えてくることもあるので、全職場を横断しながら、職場の問題を一緒に考えていくために行うラウンドも重要な役割の一つです。

私自身も入職して数年経ったころ、大きなアクシデントを起こしました。そのときは深く落ち込み、申し訳なさ、無力さ、未熟さを痛感しました。そのときから現在を比べてみると、一患者１トレイやミキシング時のダブルチェックなど安全文化は確実に醸成されつつあります。

医療安全管理者
看護師長
生方（うぶかた） 真理子（まりこ）



現在インシデント報告は年間約1400件あり、その中で報告が多い職種は看護師です。看護師は患者の最も近くでケアを提供するため、インシデントやアクシデントの当事者になることが多くあります。「人は誰でも間違える」という言葉が示す通り、どれほど注意していても、人はエラーを起こす可能性があります。人は間違え得るという土台の上に、間違いにくい環境を整え、そして起こったとしても影響を最小限に抑える仕組みをチームで作ることが医療安全管理者の役割です。


医療安全カンファレンスの様子


医療安全管理委員会の様子

熊本地震の災害医療支援

2026年8月5日から11日までの7日間、7月28日に発生した熊本地震に伴う災害医療支援として、総合診療科の鈴木諭医師と荻野臨床検査技師の２名が、DMATコーディネーションチームとして熊本県へ派遣されました。

活動は熊本県庁での本部業務が中心でした。発災から約１週間が経過しており、被災地では緊急的な医療支援から、地域の医療機関や福祉、行政へ支援を段階的に引き継いでいく時期に移りつつありました。

本部では、各地域の被害状況や医療機関の状況、支援チームの活動状況などの情報を集め、必要な支援について検討するとともに、関係機関や支援チームとの調整を行いました。また、被害の大きかった氷川町では、小規模多機能施設から近隣の福祉センターへの避難に関する調整・支援にも携わりました。

災害時には多くの組織や支援チームが活動するため、正確な情報を共有し、それぞれが連携することが重要です。今回の派遣を通して、本部から全体を把握する視点と、実際の現場を知ることの両方の大切さを学びました。今回得た経験を、今後の災害への備えや地域との連携に活かしていきたいと思います。


他院 DMAT や日赤救護班との打ち合わせの様子


八代地域保健医療福祉調整本部氷川町支所にて支援状況の説明を受ける様子

医師会との情報交換会を開催

９月25日(金)、『第13回 沼田利根医師会・利根中央病院情報交換会』を開催し、医師会の先生方をはじめ総勢67名にご参加いただきました。当院からは、現在の診療体制のご案内と、これからの医療を担う研修医の紹介を行いました。医師会の先生方からは、日頃の患者紹介に関する貴重なご意見や、温かいお言葉を数多くいただき、参加者一同、身が引き締まる思いと同時に大きな活力となりました。

「顔の見える関係づくり」を大切にした本情報交換会を通じて、お互いの信頼関係が一層強まりました。当地域における医療完結を目指し、今後も地域の先生方と一丸となって連携体制を強化してまいります。


交流会の様子


研修医紹介